令和４年度　文京区立青柳小学校

第１学年　授業改善推進プラン

	児童の実態から見える 指導方法の課題（重点項目）	具体的な授業改善策	○成果と▲課題
国語	○鉛筆の持ち方や姿勢に気を付け書く。また、正しい筆順で、「とめ」「はね」「はらい」などを区別し、整った文字を書く習慣を身に付ける。 ○順序立てて話したり、相手の話を聞いて内容を聞き取ったりする。 ○文章を読むことへの関心をもち、豊かに想像しながら読む力を伸ばす。	・正しい鉛筆の持ち方、正しい筆順、「とめ」「はね」「はらい」を意識させ、常に丁寧に文字を書くように継続して指導する。 ・相手への意識をもたせるようにする。児童が順序についてイメージしやすいように話し方の型を示す。 ・音読を積極的に行い、語彙を増やし、言葉から豊かに想像する基礎を養っていく。また、大事な言葉を見付け、そこから想像を広げて読むことができるよう、サイドラインや吹き出しなどを用いて指導する。	○国語を中心として日頃から指導してきたことで、整った文字を書く習慣が身に付いた。 ○毎日音読を行うことで、読む力が付いた。また、話の内容の大体を理解できるようになった。 ▲伝えたいことを整理して話したり、最後まで集中して話を聞いたりする力の向上が必要である。
算数	○実際の様子を想起させ、問題と実生活とを結び付け意欲的に活動する。 ○操作活動をしながら考えさせ、具体物や半具体物から数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付ける。 ○学習内容の理解の定着を図る。	・式で表される場面を探して言葉や絵や図を用いて表したり、実生活で探した数量について式に表したり、問題づくりをしたりすることを通して、「解いてみたい」と思わせる授業づくりを行う。 ・具体物を操作しながら数量やものの形に関わりをもち、操作したり図などを使ったりして児童が説明する活動を取り入れる。その際に算数の用語を使って言語化させる。 ・個人で活動する時間を十分に取り、適用問題に積極的に取り組ませ理解の定着を図る。また、各クラスで連携を取りながら習熟度別学習を実施する。	○児童の意欲を高めるための工夫を取り入れた授業づくりを行った。「もっと解いてみたい」「こんな問題もあるよ」という児童の様子が見られた。 ○計算力が向上し、文章題から式を考えたり、説明したりできるようになってきた。 ▲具体物などを操作する活動から、自分の考えを表現することができるようになった。文章や口頭等で論理立てて説明できるようにする必要がある。
生活	○自分と地域の人々・社会との関わりに関心をもち、集団や社会の一員としての役割や行動の仕方を考え、安全で適切な行動ができるように指導する。 ○自然との関わりに関心をもち、自然の素晴らしさに気付き、自然を大切にする態度を育てる。	・自分と地域の人々・社会との関わりが具体的に把握できるような学習活動を行い、積極的に体験活動を取り入れていく。 ・アサガオやチューリップ等の栽培を通して、植物の変化や成長の様子に関心をもち、生きていることや成長していることに気付かせ、生き物に親しみをもち、大切にすることができる態度を育てる。 ・国語科、算数科、音楽科、図画工作科など他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高める。	○家の手伝いをすることを通して、家族の大変さに気付いて感謝の気持ちをもつことができた。 ○植物の栽培では、水やりを通して、自然に親しみ、大切にする態度を培えた。 ○他教科の学習と関連付け、繰り返し指導を行ったことで、身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考える姿が見られた。 ▲地域の方との交流を増やし、社会の一員としての自覚をもたせる必要がある。

体育	○いろいろな運動を経験させ、基礎感覚を身に付けさせる。 ○きまりを守り、友達と仲良く、協力して、安全に気を配る等の態度を育てる。 ○課題に応じて運動の取組を選んだり、工夫したり、相手に伝えたりする力を育てる。	・いろいろな運動を経験させ、動きの感覚を養うことで、運動の楽しさを味わい、できる喜びを体感できるようにする。 ・活動の仕方や遊びの規則を工夫し、きまりを守ることで味わえる楽しさを感じられるようにする。 ・運動を自分で選択する場を設けたり、互いの良さを認め合える振り返りの場を設定したりして、思考力や判断力、表現力を育てる。	○いろいろな運動を取り入れたことで、運動の基礎感覚を着実に身に付けることができた。 ○友達と仲良く・楽しく・安全に活動する態度が育った。 ▲友達の運動を見て良さを見付けたり、動きを工夫したりする活動を増やしていく。
道徳	○人に対する思いやりや協力、規則の遵守の心を育てる。 ○自分自身を高めていこうとする意欲をもつ。 ○道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。	・年間指導計画に基づき、児童の実態に合わせ、児童が共感や感動を覚えるような教材を選び、活用する。 ・児童が発言しやすい場の設定をし、発言を促すようにする。 ・自分の成長を感じ自己肯定感を高められるように、生活科とも関連付けながら進めていく。 ・問題解決的な学習や役割演技などの疑似体験的な表現活動を通して、道徳的価値の理解を深める。	○学習や生活の課題と結び付いた教材を選ぶことで、児童がより共感したり、自分のこととして考えたりすることができた。 ○道徳の時間や毎学期に立てるめあてとその振り返り等を通して、児童が自分の成長を感じられるようにした。 ▲実践意欲はあるが、学校生活において規則遵守などの実践には、個人差が残り、継続した指導が必要である。